

## 「信頼できる記事とはどのようなものかー心理的安全性を例に」

大阪大学特任教授 野村 美明

ネット記事には無責任な言説が横行する。AIが生成した情報も間違っていることがある。不正確な情報の最大の問題は、利用者がそれに気づかないで再利用することによって拡散していくことである。

学術論文では、著者は脚注などで元になる情報の「出所」を明らかにする義務を負う。このことによって、読者は著者の主張の確からしさを後で検証できるのである。事後的な検証可能性があることが、著者の主張にたいする信頼の根幹となっているのだ。面倒なので実際に検証するかどうかはわからないにしても。

このコラムでは、#心理的安全性#を例に、情報の出所の重要性について考えてみる。心理的安全性は、イノベーションを引き起こす組織の重要な特徴だといわれる。しかし、この言葉を印象だけで理解すると、誤解につながる。大阪大学のリーダーシップの授業でも、受講生がこれを馴れ合いや仲良しクラブ的にとらえていた(グローバルリーダーシップ通信第194号2026/2/6参照)。授業では、重要な概念を定義なしに使うことの危険性に注意を促した。

「心理的安全性」をインターネットやAIで検索してみると、いくつかの記事はエイミー・エドモンドソンが1999年に初めて主張したと記載している。これは信頼できそうである。しかし、どこを見れば検証できるかまでのデータは示されていない。そこで、この著者について調べてみると、2019年の著書がヒットする。

この書籍は、最初に「心理的安全性」は本音や異論を恥や報復の恐れなく発言できる環境を指すと定義している。著者は用心深く、「良い人と思われるために妥協する調和的環境や緊張感のない環境を意味するものではない」と否定的に定義している。さらに調べると、この書籍はエドモンドソンが1999年に公表した学術論文をもとに書かれたことがわかる。

現在では、心理的安全性はうまく機能するチームに不可欠な要素として語られることが多い。グーグルの#プロジェクト・アリストテレス(Project Aristotle)#は、「効果的なチームの条件とは何か」を2年間研究して、心理的安全性がその最重要条件であると結論づけた。研究の当初は、成功するチームにはまず何よりも「知的な能力の高い人々による構造化された階層」が必要であると推測されていたが、これが正しくなかったことが明らかになったのである。

このコラムからわかるように、ある言葉や主張の裏付けをとるのは手間ひまがかかる。しかし、ソースを示すことで「無責任」なネット記事との差別化が図れると思う。ネットの隆盛で新聞が売れなくなっていると言われるが、実はきちんとした裏付けに基づいた新聞記事には存在意義があるのだ。ソースを秘匿しなければいけない場合もあるが、いざとなれば検証可能にしておくことが信頼につながるのではないだろうか。

【出典】

#心理的安全性#

Emy Edmondson, The Fearless Organization: Creating Psychological Safety in the Workplace for Learning, Innovation, and Growth (2019), xvi;15-19.

エイミー・C・エドモンドソン

『恐れのない組織—「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』(英治出版、2021)

<https://eijipress.co.jp/products/2288>

この書籍はエドモンドソンの1999年の学術論文を元に行っている。

詳細な出典は次参照:2026年1月22日木曜日「心理的安全性(psychological safety)の定義と類似概念および出典」

<https://nomurakn.blogspot.com/>

#プロジェクト・アリストテレス#

<https://psychsafety.com/googles-project-aristotle/>